

平成19年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
第2回地域検討会（熊本県） 議事概要

日時:平成19年11月29日(木)14:59～17:01

場所:天草地域振興局 別館2階 大会議室

議 事

開会（14:59）

1. 資料の確認
2. 議事
 - ①前回議事概要及び指摘事項について〔資料1、資料2〕
 - ②概況調査結果概要に関する説明〔資料3〕
 - ③クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要に関する説明〔資料4〕
 - ④その他の調査の進捗状況に関する説明〔資料5〕
 - ⑤今後の調査スケジュール案〔資料6〕
3. 全体を通じたの質疑応答
4. その他連絡事項

閉会（17:01）

配布資料

- 資料1 第1回地域検討会（熊本県）議事概要
- 資料2 第1回地域検討会（熊本県）での指摘事項に対する対応（案）
- 資料3 概況調査結果概要
- 資料4 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要
- 資料5 その他の調査の進捗状況
- 資料6 今後の調査スケジュール案

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（熊本県）
第 2 回地域検討会 出席者名簿

検討員（五十音順、敬称略）

小野 三幸	苓北町農業協同組合 女性部 部長
尾上 徳廣	上天草市 農林水産課 課長
角岡 正一	天草漁業協同組合 苓北支所 支所長
(欠) 神戸 和生	熊本県 天草地域振興局農林水産部 部長
(代理 坂田達哉	天草地域振興局農林水産部漁港課 課長)
桑原 千知	樋島漁業協同組合 代表理事組合長
(欠) 児玉 修	熊本県 天草地域振興局保健福祉環境部 部長
(欠) 小幡 孝行	上天草市 環境衛生課 課長
(代理 西中憲昭	上天草市 環境衛生課 課長補佐)
篠原 亮太	熊本県立大学 環境共生学部 教授
(欠) 下野 隆司	国土交通省九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所 第 1 工務課 課長
滝川 清	熊本大学 沿岸域環境科学教育研究センター 教授
田嶋 健一	天草郡苓北町 生活環境課 課長
田中 誠也	熊本県 天草地域振興局土木部 部長
(欠) 寺下 進一	国土交通省 八代河川国道事務所 河川環境課長
(代理 岸良武志	八代河川国道事務所 河川環境課係長)
西田 克典	天草郡苓北町 土木管理課 課長
福本 英治	海上保安庁 熊本海上保安部警備救難課海上環境係 主任
本田 恵則	熊本県環境生活部 廃棄物対策課 課長
松本 公博	NPO 法人 天草元気工房 理事長
(代理 松本俊介)	
山崎 廣喜	上天草市 建設課 課長
(欠) 若松 善久	海上保安庁 天草海上保安署 署長
(代理 仮屋俊一	天草海上保安署 次長)

オブザーバー（所属機関名）

海上保安庁・熊本海上保安部、熊本県土木部・河川課
熊本県農林水産部・農林水産政策課、漁港漁場整備課、水産振興課
熊本県環境生活部・廃棄物対策課
熊本県天草地域振興局・保健福祉環境部衛生環境課、土木部維持管理課
苓北町農業協同組合・経済課

環境省

中村 雄介 九州地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 廃棄物対策等調査官
柘植 規江 九州地方環境事務所天草自然保護官事務所 自然保護官

事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)

畔 野 尚 史 環境設計ユニット
常 谷 典 久 HSE コンサルティングユニット
久木田香穂里 HSE コンサルティングユニット

議題1 前回議事概要及び指摘事項について〔資料1、資料2〕

質問・コメント等はなし。

議題2 概況調査結果概要に関する説明〔資料3〕

質問・コメント等はなし。

議題3 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要に関する説明〔資料4〕

①有効数字について

- 1) 測定方法のわりに、資料に示された桁数が多い。
→報告書等では、有効数字を考慮の上記載する。

②調査範囲の選定及び調査方法について

- 1) 何を目標として調査範囲を決め、また、この調査方法をとったのかを説明してほしい。
→調査範囲は、環境省が募集をかけた際に熊本県から推薦があり、樋島海岸は内湾に面した海岸、富岡海岸は外海に面した海岸であり、自然的特性が異なることから選定した。実際の調査場所は、アクセス等も含め、安全、確実に調査ができるということで選定した。
調査枠は、共通調査は全国共通である。共通の面積の中のゴミを集め、そのゴミを共通の分類に従って分けるために10m×10mの枠を設定した。枠の設置場所は、海岸全体を見渡し、ゴミの漂着状況が大体平均的なところとした。
ゴミの漂着状況を解析するため、海岸方向と内陸方向に5枠設置することとした。環境上の制約で内陸方向に10m枠が1枠しか置けない場合、枠内を更に細かく2mに区切った。
- 2) 枠の大きさに統計学上の意味はあるのか。
→統計学的有意性を以って10m枠を設定しているわけではない。各種調査結果の比較のため、NPECの漂着ゴミのマニュアルに準拠した。また、全国でも初めての実験なので、まずはやってみようというところからスタートしている。
- 3) 調査した結果が本当に有意な答えになるよう調査すべきである。
→全国的な話もあるので、今後、環境省ともまとめ方を相談していきたい。
- 4) 海岸線の特徴やゴミの特性などについても書いていただきたい。
→クリーンアップ調査で得た情報を元に、フォローアップ調査の中で水平方向の展開や海岸線の形状等の関係などを解析していく。

③発生源について

- 1) 集計をみるとやはり流木関係が一番多かったが、これの原因まで踏み込んだ調査になるのか。原因がわかれば削減につながるので、今度の調査で原因の特定までするのかお尋ねしたい。
→流木については、現段階では、発生源を突きとめる調査をする予定にはしていない。
- 2) 材木関係の専門家などに聞き、可能性の調査だけはしていただきたい。判断の指標があればそれを手がかりに、量的なものも出てくる。ぜひそれも継続的に調査していただきたい。
- 3) 資料の課題の項に清掃のことが書いてあるが、今後の課題は清掃ではなく、ゴミの発生源を調べるのが1番にこななければいけないと思う。
→流木の多い山形県、三重県では、国交省、保安庁、保安部のご協力のもとで、発生源と想定される河川から生分解性の標識ボトルを流す調査をしている。三重県では発信機もつけて、漂流経路も探ろうとしている。富岡海岸は外洋で、大きな河川があるわけではないので、今のところ見つからないという答えになる。
- 4) 外海に対しては環境省担当という話は理解したが、内海に対しての対策がもっと深刻な問題で

ある。地元に対する対策を考えていただかないと、ここで検討会をする意味がない。

→環境省本省から、この検討委員会での意見は重視との指示を受けている。新しいご提案もいただく場としていきたい。

- 5) 今後この会を生かしていくために、検討会の意見を取りまとめて参考とし、何らかの対策をとるととの事務局の話であるが、その確認を環境省にしていきたい。

→被害の原因は一つではないと思われるので、単独では難しい部分もある。ネットワークのようなものが必要だと思う。一例として、流域サミットの開催可能性の研究も行っており、この地域がノミネートされることもあり得る。それに向かって検討会で機運が高まればと思う。
→このモデル事業の目的は、この調査終了後も間違いなく漂着してくるであろう漂着ゴミをいかに地域の方々が一緒になって、海岸清掃に取り組んでいく方策をつくっていくことが一番の主眼ではないかと思っている。

必ずしもその対策が、その海岸の近辺だけというわけではなく、内陸の河川も含め、発生源、メカニズムも検討していくことになる。それを受けて国レベルでは、環境省との連絡会議のようなものも設け、やや遠回りになるが本省レベルで関係省庁で話し合い、それを地域にフィードバックしていこうと思う。色々なご意見をいただきたい。

- 6) 検討会では本当にこの地域のためになる議論をしたい。それを取り上げるかどうかは役所で考えていただければいい。次の手だてを、上流も絡むから農水省や林野庁などを全部ひっくるめて議論しないとできないという答えは必要ではない。

この会は、そのゴミの問題に対して、ここの地元の人の立場に立って、どういう方法でやったら一番いいだろうかという理想論を語りたい。一方向にただ国から援助をとという話ではなく、できるところは一生懸命やるという議論をする場だと私は位置づけたい。そうでないと、次につながらない。

- 7) それぞれに役割分担があり、調査をする事務局、情報をもっている人は提供する、などして議論をしたい。最終的にはやはり環境省が動いて、環境省と県が手を組み、国土交通省や農林水産省にも呼びかけて、球磨川・天草サミットといったような連携を主宰して、話を大きくしていかないといけないと思う。

最後の報告書に、この検討委員会の要望事項という形で列挙してまとめていき、改めて国に出すときの重要な参考資料にしたいと思っている。議論は今後も検討会ごとに深めていきたい。

④調査の安全対策について

- 1) 富岡海岸について、12月の調査で船は使うのか。

→4、5番の浜の流木の運び出しなどで船を使う。

- 2) 4の浜への移動はどうする予定か。

→海岸線を通らず、前回調査時に教えていただいた道を遊歩道から下りる。今回は仮設の階段を作り、安全に作業ができるようにする。

議題4 その他の調査の進捗状況に関する説明〔資料5〕

①樋島海岸の調査範囲について

- 1) 定点観測をしているが、新しく流れ着いたゴミだけでなく、調査区域と民有地の境界に溜まったゴミが散らばったものもある。次回の調査で除去対象とできないか。

→本省に相談した経緯もあるが、民有地は調査の対象から除く考えである。

- 2) 定点観測データの妨げになる恐れがあるのであれば、第2回クリーンアップ調査において除去することを検討されたい。

→検討する。(民有地は調査対象外とするが、敷地境界については調査範囲への影響の有無を

考慮し、可能な範囲でゴミの除去を行う方針とする。)

議題5 今後の調査スケジュール案〔資料6〕

質問・コメント等はなし。

議題6 全体を通じての質疑応答

- 1) 欠席の国土交通省九州地方整備局の委員に、面談して本日の議事内容を説明すること。
→拝承。
- 2) 前回収集した流木を炭化处理したサンプルを持参したのでご覧頂きたい。本調査の本題に即すると思い個人的に行っているが、関係省庁にバックアップなどいただければ、自主採算性を目指したゴミの適正処理、継続につながると考える。
→流木の炭化处理について、コストや流通経路などを検討する共同研究を、この地域の事業の中で実施する予定ある。今後の検討会でご報告する。

—— 以上 ——